

## ZANDEN Model 120 の展開(72) ーベーターヴェンを聴き直す(7)ー

### 1. 始めに

前報(71)に引き続き、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤を聴き直していきます。

### 2. Model 120 設定条件の試聴方法

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、ZANDEN Model 120 の活用(33)同様、下記のとおりとします。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力し、アンプは Langivin 6V6pp を使用しています。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langevin 6V6pp

なお、LINN LP-12 の再構成(22)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

音源としては、これまで聴いてきたベーターヴェンの盤から選んでいきます。

今回は、ベーターヴェンの弦楽四重奏の下記を選定しました。

#### harmonia mundi ULX-3251-H

弦楽四重奏曲第 15 番イ短調 4 作品 132

コレギウム・アウレウム弦楽四重奏団

#### Columbia OS-2884-S

弦楽四重奏曲第 16 番へ長調作品 135

弦楽四重奏曲第 9 番ハ長調作品 59-34 ラズモフスキー第 3 番

スメタナ四重奏団

上記は下記で報告しています。

[アナログ再構成後の活用\(12\)](#)

[アナログ再構成後の活用\(13\)](#)

### 3. Model 120 設定条件の試聴結果

Model 120 の設定は、ZANDEN 社から提供されたリストを参考にして選択していきます。

harmonia mundi ULX-3251-H のコレギウム・アウレウム弦楽四重奏団盤は、テイチク制作なので、EMI、正相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。コレギウム・アウレウム弦楽四重奏団は、弦楽四重奏曲第 15 番の曲の表情に合わせて、多面的で変幻性のある演奏を聴かせてくれます。

Columbia OS-2884-S のスメタナ四重奏団盤は、Columbia、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

弦楽四重奏曲第 16 番は、全般に穏やかな表情で推移しますが、スメタナ四重奏団は緻密で隙のない演奏を聴かせてくれます。

弦楽四重奏曲第 9 番ラズモフスキー第 3 番は、スメタナ四重奏団らしく緊張感のある厳しい演奏です。

### 4. まとめ

前回の試聴以降、前報(24)で報告しましたように ZANDEN Model 120 の導入などの効果があって、上記の曲の演奏のニュアンスがよく表現できるようになりました。

以上